

■H31.04.08 市長定例記者会見内容

日時 平成31年4月8日（月）午前11時～正午

場所 庁議室

出席 市長、副市長

危機管理監、企画部長、交流推進調整監、農林水産部長

酒田記者クラブ 6社（山形新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK）

その他1社（コミュニティ新聞）

■発表事項

1. 「旧割烹小幡」の使用予定者募集について

昨年末に使用予定者の募集を行ったところ、1社の応募があったが、取り下げとなってしまう、使用予定者の決定ができなかった。その後、市内の飲食店経営者や厨房機器販売店などから、応募しにくいと感じた部分などの聞き取り調査を実施し、その意見を募集要項に反映させた形で、再募集させていただくこととした。募集期間は平成31年4月16日から令和元年6月17日まで2か月間としている。

募集要項の主な見直し部分としては、お手元の資料にも記載しているが、使用エリアについては、前は洋館全館と和館2階を使用エリアとする設定だったが、今回は洋館全館と和館1階の2エリアに分けての募集とし、2エリア両方への応募も可能な内容としている。応募者の事業計画により柔軟に対応できるようにしたいと考えている。使用料については、最低価格を前回と同様に㎡単価400円/月とし、洋館と和館をそれぞれ分割して設定する。それを基に算定すると、洋館が50,000円/月、和館が102,000円/月が使用料の最低価格となる。売上の5%を使用料でいただくことについて変更はないが、洋館と和館を、分離しての使用が可能になり、弾力的な運用を検討いただける。この2点が主な変更点となる。

また、応募者の要件だが、前回と同様に、市内に本店を置く法人、もしくは個人で、市外事業者等の希望者については使用者として決定されたあとに、市内に新規法人を立ち上げていただく必要があることとしている。

最後に、使用できる期間だが、5年ごとの更新を基本とするが、運営上特に問題が見受けられなく、良好な運営状況の場合は、さらに5年間の延長を認めることとしている。

今後のスケジュールとしては、6月下旬に公開プレゼンテーションを実施し、7月上旬には使用予定者の決定、12月定例会には工事の契約の議案を提出するスケジュールで考えている。オープン目標としては令和3年4月を目標としている。

旧割烹小幡は、今後、日和山界隈の賑わいを創出していく上での拠点のひとつとなっていくと思う。最終的には観光客や市民の皆さんから日和山においでいただいて、昔のように賑やかなエリアとなることを目標としている。

なお、財源として地方創生推進交付金と地方債の財源を予定している。この予算は

6月に補正で議会に出していきたい。

記者／大体どのくらいの数の業者から意見を聞き、どういった意見が出たのか。

市長／7社から話を聞いた。

調整監／意見としては「建物を一括というところが規模的に難しい」「和館の2階に客を上げるのが飲食店的には大変」といった意見もあった。

市長／洋館は特に席数が少ないし、立地的にも集客が見込まれるのかということについて不安を語る方が多かったと思う。また、建物が古く、どこまで改修できるのか、といった疑問を持つ業者もいた。2階に客を上げる事に関してはエレベーターの設置まではなくてもいいのかなと考えているが、いろいろバリエーションを考えながら活用していきたい。建物を保存活用するのが市の目的であり、今回の募集では以前に比べ営業のしやすさといった点で改良している。

記者／前回の募集では洋館に関して洋食提供に限定していたと思うが、今回変更はあるのか。

市長／変更していない。

記者／和館はどういった活用を想定？

市長／現在検討中ではあるが、日本酒や酒造りの歴史、文化などを紹介できるスペースなども良いのではないかと考えている。使用予定者の意向や事業計画などもあるので、詳細については使用予定者が決定してからつめていく形になると思う。広間というより展示スペースを想定しているが、気軽に休んでもらえる施設も良いと思う。

記者／駐車場など交通の便の課題もあったと思うが。

市長／今のところ具体的な駐車場の整備計画はなく、既存の公園の駐車場などを活用するしかない。将来的に日和山全体の一体的な整備をしたいという思いはあるが、現時点で具体的にどうというものはない。

記者／現時点で建物の中を見ることはできるのか。

市長／言ってもらえれば見る事ができる。むしろ見てもらいたい。今のままの状態を使うと理解されると誰も手を挙げないかもしれないが、補強・改修はするのでイメージは変わる。使用予定者が決まれば予定者と協議したうえで、設計を組んで工事を発注していきたい。

記者／今回の募集に際して説明会は実施するのか

調整監／募集説明会を4月24日に予定している。

記者／資料に記載されている「市が行う厨房機器の一部整備」とは、どの程度を想定しているのか

市長／標準的なものは市で整備できるが、特殊（高価）な厨房機器は難しいかもしれないということで「一部整備」と表記している。

調整監／金額としては100～200万くらいの機器整備。業者から初期投資をできるだけ抑えたいとの声もあったこともあり、整備することとした。

2. とびしま応援店について

はじめての試みとして、飛島の新鮮でおいしい海の幸を味わっていただける「とびしま応援店」に取り組む。

とびしま応援店では、酒田市内の料理店、販売店など10店舗にご協力いただき、いつでも飛島の海の幸をご提供できる仕組みとしている。

海の幸の一例だが、この春の時期は、メバルが大変おいしく、刺身はもちろん、煮付けや塩焼きも美味。また、そのあとにはサザエ、スルメイカと続々と続く。

本市としては、こうした取組を通じて、飛島の水産物を地元飲食店等で積極的に活用いただき、地産地消と消費拡大を図り、また、飛島への定期船が欠航した時でも、通年で飛島の海の幸を味わっていただけるようにすることで、酒田に人を呼び込める魅力ある観光資源として磨き上げ、飛島の振興を図っていく。

ぜひ、多くの皆様からとびしま応援店に足をお運びいただきたい。

■懇談・フリー質問

【県議選の結果関連】

記者／結果についてコメントをもらいたい

市長／定数5に対して候補者8人という厳しい選挙戦だったと思う。当選された5人の方には酒田飽海地区の発展に力を発揮して頂きたいし、一緒になって頑張っていきたい。新しくなられた方々とは懇談の場も設けながらパートナーとして、県・国に対して一緒に活動を展開していきたい。

記者／4月5日午前中に市長が特定候補者の選挙車に乗ったのは何時から何時までか。
市長／午前8時～正午くらいまでだと思う。

記者／午前10時からの県立産業技術短期大学の入学式には副市長が代理で出席した。公務があるその時間に特定候補の選挙車に乗った。どういう判断だったのか

市長／梶原さんの選挙車に乗った。梶原さんとは旧知の中で同胞。今回選挙と言う大きなチャレンジのなかで政治家として応援したいという思いがあったので立会演説会にも行き応援させてもらった。選挙期間中の後半ということで、私が活動できる時間がそこしかなかったので選挙車に乗り応援させてもらった。公務についてはすべて市長がやらなければならないというものではない。副市長の時間も空いたので変わってもらった。私の判断でやったことで、入学式を軽んじたわけではないが、梶原さんとの信頼関係を重視した。そのことについて、どちらを優先するかは私の判断。まわりがどうみようともしたしかたないという思い。

記者／他の自民党の3人の候補の個人演説会には行っているが、選挙車に乗ったのは梶原さんのみだったのはどういう理由か

市長／選挙車に乗るよりも重要だと判断される公務もあるなかで、時間的にそれしかなかった。また、要請があれば同次元で考えるべきだったかもしれないが、今回に関しては選挙車に乗ってほしいと声がかかったのは梶原さんしかいなかった。

記者／前代未聞と言う声もあるが。

市長／それはその人の捉え方。そのことが法律に違反しているならば甘んじて受けなければならぬと思うが、そういうわけでもない。市長であり政治家でもある私の判断でさせてもらった。市長が特定候補を応援するのはどうかという人もいるが、自分の選挙の際に応援してもらった方でもあるし、いろんなひとの見方があると思う。私としてはいままで支えてもらった人の選挙の応援に行くのは当然だと思っている。

副市長／入学式は例年副市長が出席することが多い。今回だけ特別そうしたというわけでもない。

市長／産業技術短期大学は県立であり、酒田市は来賓という立場。看護専門学校などは設置者なので主賓としていくので、そういったものより選挙車に乗ることを優先するのは問題だと思う。そこは何が重要かということ自分なりに判断しながら、出欠席、代理出席に関して判断させてもらっている。

記者／選挙車に乗るということは以前から決まっていたのか

市長／以前から日程を空けてほしいと言われ、いくつか候補があったなかで公務の日程もあり最終的にあそこの日程だけ残った。

記者／法律には抵触しないとの考えか。

市長／今回の選挙車に乗った件が抵触するとなると立会演説会もすべて抵触することになるのではないかと。知事と握手している候補者もいた。そこは該当しないと思う。

記者／今回県内で酒田は投票率が2番目に低かった。その辺はどう考えているか？

市長／政治に関心がない地域とは思わないが、熾烈な選挙でも投票率がのびないことをみると、市政・県政に関心を持ってもらうような働きかけの必要があるのかなと痛感した。

記者／県内では投票にならないところも多かった。県議会のありかたの課題も感じるか

市長／県議会が何をやってるかはわからないのは、双方の責任。我々も関心を持ってもらう努力を怠ってはいけないし、住民も知る努力を怠ってはいけない。住民も自分事として捉えないといけない時代にさしかかっているのではないかと思う。投票する権利は先人が命をかけて取得した。今の人がそこを忘れていくと日本の将来が心配でもある。

記者／今回の選挙では18歳選挙権のPRが以前ほどない印象だった。今後これまで以上のアピールは考えているか

市長／新年度の事業で酒田南高校の生徒を対象としたワークショップも行う。若い人が言ったことが予算として組み込まれるということを見せることで、若い人の市政への関心向上、投票につながるかなと思った。今回高校生をターゲットにワークショップをやることは、投票が大切と感じる子どもを増やしたいという思いもある。

記者／親が選挙に行かないから、自分も選挙に行かないという子どもも多い。子どもから親に訴えるようなことも必要なのかもしれない。

市長／親世代が変わらないと子どもは変わらない、逆もある。投票の大切さは学校教育でも教えないといけないと思う。行政と教育委員会は両輪で地域を変えていかないといけない。社会教育として地域のなかで機運を醸成することも必要。教育委員会の意義は

大きい。学校教育、社会教育一緒になって自分事として捉える住民を増やしていくことが必要。

副市長／若い人への対応に関していえば、本市では公益大で期日前投票所を設けているという特徴があるが、住民票をそもそも移していない学生も多い。そういった学生が住民票を移すように説明をして行く必要もある。

【中高一貫校関連】

記者／改めて感想は

市長／県教委から意見を問われたので、市長個人の思いだけではなく、市民の皆さんの声や議会の意見も反映させて酒田市としての考えを伝えさせてもらった。その後も副市長が集まる場などでも同じような意見を述べさせてもらっていた上で、県の教育委員会であるような判断をされたというわけで、その判断は肅々と受け止めるしかないと思う。我々が地域づくり全体に対する危惧を述べたので、その辺の配慮を今後は県から具体的に勘案してもらいたい。また、中学校教育は酒田市教育委員会が所管なので中学校教育の充実に向けてはこれからも酒田市教育委員会と一緒に力を緩めずに頑張っていきたい。酒田から若い有望な人をどんどん輩出していけるような教育環境を大切にしていきたい。

【図書館】

記者／図書館を指定管理できるよう条例改正がなされたが、指定管理は費用がかかるという面もある。市長自身、財政が逼迫しているとの考えも示している中でどのように考えているか。

市長／あれだけの投資をする事業。市民にとっていいサービスを提供する場所でありたいという思いが第一。財政に重きをおくか、市民サービスに重きを置くかというところで図書館は市民サービス拡充を重視した。一定の経費がかかることも間違いない。人件費を削って事業を実施しなければならないものも増えてきたため、財政状況に関しては緊迫感をもってそういった発言もしてきた。

記者／指定管理を導入するというのを白紙にすることは？

市長／指定管理がベストという決断を重視したい。

以上